

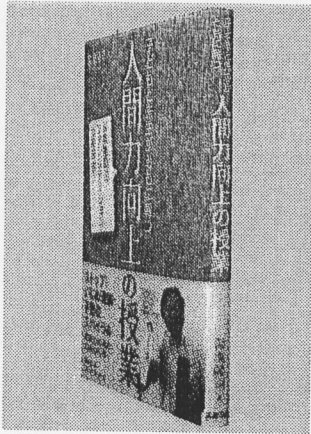
子どもと先生がともに育つ 人間力向上の授業 深美隆司のファシリテーション出前研修

深美 隆司 著

「主体的なあり様」の重要性説く

文科省研究開発学校として、中学校区における人間関係づくりのための授業「人間関係学科(中学校)HRS(Human Relation Studies)、小学校・幼稚園(あいあいタイム)」を実践した大阪府松原市立松原第七中学校での勤務経験を基にまとめた。著者はいじめ体験を原点に、いじめ問題や不登校の課題などに向き合ってきた。退職後も「あいあいネットワーク of HRS」代表として、出張ファシリテーションなどで活躍中だ。序章「私が『人間関係づくりの授業』にたどりつくまで」、第一章「なぜ、いま人間関係づくりの授業なのか」から第6章の「教員に求められる七つの力」までで構成する。

認知や行動、評価のスパイラルに、感性を高めることを加えていくことで主体的な人づくりが実現でき、こうした人は自分自身を計画的に成長させていくことができる。そのため人間関係づくりの授業について「ソーシャルスキル」出会いと気づきの力」「人間関係調整力+人間力」の3要素を持つなど平易に解説。生徒たちの「いじめ」や「不登校」などを成長プロセスでの「依存性の表れ」と捉え、その成長を「依存的」から「主体的なあり様」へと変える支援を提言する。そのためには、生徒だけでなく、教師自身が「主体的なあり様」を確立することの重要性を説き、そのための研修の実際も読むことができる。(徳)



図書文化社 1890円
☎03・3943・2511

日本教育新聞のお申し込みはこちらへ ミナヨ ご自宅・勤務先でもご購入できます。 ☎0120-43-3746 ◆FAX 03-5510-7822 ◆Eメール kodoku@kyoiku-press.co.jp